

5. グローバリゼーション, 多様性と文化的帰属, 6. 都市と地方を包摂する開発, 7. 男女平等と人間の安全保障, 8. 健康, 安全とバイオセキュリティ, 9. 自由, 民主主義と安全確保の9つのサブテーマごとにセッションが組織され報告が行われた。本研究所より福田節也・企画部第2室長が出席し、「7. 男女平等と人間の安全保障」のセッションにて「Japan's Gender Revolution and Its Family Outcomes」と題した報告を行った。分野横断的な国際会議ということもあり、自分の専門とは異なる分野の研究に触れる良い機会であった。なかでも報告者は、Future design 研究のセッションに刺激を受けた。Future design 研究とは、仮想将来世代の利益をどのようにして「今」の政策決定に反映することができるか、を研究する学際的な試みであり、人口減少期を向かえた日本社会の持続可能性を考える上で大変示唆に富むセッションであった。(福田節也 記)

アジア太平洋地域高齢者会議2018 (イラン・テヘラン)

2018年10月23日(火)から25日(木)、イランのテヘラン市にて、アジア太平洋地域高齢者会議2018が開催された。この会議は、ヘルプエイジ、イラン国立福祉組織、イラン労働社会福祉省、国連人口基金(UNFPA)により主催・共催されたもので、「高齢化社会における家族、地域と国家」をテーマに、高齢者の社会包摂、所得保障、介護の3つの軸に関して、イランを含めた25ヵ国、6国際機関の参加者による報告・議論が行われた。筆者は「家族が変容する中で介護の在り方はどうなるか」という講演を行い、各セッションの議論に参加した。

イランでは、1980年代後半より日本の戦後同様の激しい出生率低下を経験し、そのため、人口高齢化のスピードは日本や韓国よりも速いことが見込まれており、また高齢者の独居割合は韓国よりは低いものの日本よりも高い状況となっている。家族介護も重要ではあるが、それを乗り越えて、現在急ピッチで高齢者医療・介護への取り組みが行われている。

会場には、東アジア・ASEAN 経済研究センター(ERIA)と日本国際交流センター(JCIE)による日本の「アジア健康構想(AHWIN)」のブースも設けられ、多くの来場者があったようである。会議の内容は、<https://www.ageingasiaconf2018.org/>より閲覧できる。(林 玲子 記)